

# 仮設住宅などでのディアコニア報告書

2017年11月24日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

\*報告期間:2017年10月18日～10月28日(2017年第10次)

6会場=1 仮設住宅 4 復興住宅 2社協(その内一ヶ所は避難指示解除地区の社協)

◇10月18日(水) 生鮮食品等仕入(COSTCO・ハナマサ) 横浜発 荷物搬入

◇10月19日(木) 荷物整理 仕込み

## **【1】10月20日 杵形第2市営復興住宅(初回)(本宮市・浪江町民)**

サマリタンハウスから片道110km・1時間50分 本宮市街の南端部にある。原発被災者向けの復興住宅としては珍しく市営住宅(本宮市)になっている。初訪問

平屋建て3LDK19戸で、住民は全員が浪江町民である。

NPO みんな郡山にチラシ配布や当日の手伝いをしていただいた。団地自治会の方にもたくさん手伝っていただいた。

地域住民の方10名以上が参加された。また、本宮市社協の方も参加された。

自治会長の若松俊夫さんは、浪江町請戸の出身。請戸は原発から数kmで津波でも甚大な被害を受けた地区。

以前は、大平農村広場仮設住宅(二本松市)に住んでおられ、当時私たちが支援に伺ったことを覚えておられた。

支援者は、石川和宏



### **支援の結果**

- ・提供したのは、DVD上映(落語三遊亭圓歌「中沢家の人々」・きみまるライブ1巻)・昼食(豚汁など)・コーヒーと手作りケーキ・庖丁研ぎ
- ・支援者を除く参加者24名(男性4名) 総参加者28名 庖丁研ぎ16世帯18本
- ・浪江町の方が住む復興住宅だったので「浪江わが故郷」(作詞平本佳司・作曲/唄たなかきょう)を上映した。しばしこの話題で皆さんとお話しできた。歌を作った平本さんは同じ本宮市にある恵向仮設住宅の自治会長でもある。
- ・今回は、地域住民の方が多数参加された。被災者・避難者の「復興」にとって、復興住宅内は元より、地域内でのコミュニティ作りも欠かせないが、みんなの努力もあって、避難者と地域住民が共に集う貴重な場になった。これが他の復興住宅にも広まって欲しい。

### **皆さまから伺ったこと**

《津波・原発・避難について》

- ・浪江の街中に家があるが、かつての面影は残っていない。

《帰還について》

- ・スーパーが開店し、歯科・内科・整形外科があれば帰還を考える。

《イベントについて》

- ・お互いに話し合えて良かった。いろいろな話ができる。
- ・こういうイベントが結構だ。
- ・少しでも復興の手助けになりたい。(イベントに参加された地元住民の方)
- ・大いに笑いました。楽しく過ごせました。
- ・楽しかった。とてもおいしく頂いた。音楽や歌が良い。
- ・初めて参加したのですが、有意義で次回も参加したいです。コーヒーが美味でした。
- ・軽い運動も良いと思う。
- ・皆と仲良くしたい。
- ・みんなの顔を覚えて良かった。
- ・細かい所に気を配っていただき、楽しかった。一人住まいの人には、大勢の人と話が出来て良い。
- ・きみまろがとても楽しかった。本宮市の人と話が出来ました。
- ・近所の方の顔が見られて良かった。
- ・コミュニケーションが出来た。
- ・内容が大変良く楽しかった。
- ・みんぷくさんへ もっと長く見てください。



## 【2】10月21日 大原営復興住宅(初回)(いわき市・富岡町民 大熊町民)

ここも原発被災者向けの復興住宅。いわき市小名浜の市街地にある。

サマリタンハウスから片道 130 km・2 時間 20 分で、往復だけで5時間掛かる。かなり遠い。初訪問

5階建て 54 戸で、住民は富岡町・大熊町(双葉町・浪江町も)で、昨年末に入居を開始した。

NPO みんぷく(いわき)にチラシ配布、当日は、団地自治会の方とみんぷくに手伝っていただいた。

いわき市には仮設住宅や復興住宅が数多くあるが、首都圏から近いことや地元の諸教会が支援していると考えて、これまで支援範囲には含めていなかった。聞いた限りでは他地区と差が無い(同様にこの地域も支援が少ない)ことが分かり、今回から対象に加えた。

支援者は、石川和宏

### 支援の結果

- ・提供したのは、DVD 上映(コロッケライブ前半・きみまろライブ1巻)・昼食(豚汁など)・自家焙煎コーヒーと手作りケーキ・庖丁研ぎ
- ・支援者を除く参加者 13 名(男性 2 名) 総参加者 17 名 庖丁研ぎ 7 世帯 7 本



### 皆さまから伺ったこと

《津波・原発・避難について》

- ・居住していた部落は、半分以上が津波の被害に遭って、前の部落では無くなった。

《帰還について》

- ・住民の半分以上戻れば帰還を考える。



・自宅に行きたいです。

《復興住宅の暮らしについて》

・お店が遠い。

《イベントについて》

- ・楽しい時間を有り難うございました。
- ・いつも一人でいるので…。楽しい時間を過ごせました。
- ・集まって顔を見たり話が出来たりして良かった。いろいろな話が聞けた。
- ・一人で色々なことをするなんて素晴らしい。イベントが生き甲斐に繋がると思います。
- ・大変良かったです。又このようなことをやっていただけたらと思います。



◇10月23日(月)

上町復興住宅(2回目)(南相馬市・飯館村民)の予定だったが、台風来襲のため中止した。

道路も鉄道も不通になった。日を改めて開催する。23日・24日の支援予定だった草野誠牧師と草野容子さんは、台風で交通が途絶し、予定通りの現地着が叶わず、24日のみの支援になった。

### 【3】10月24日 小高区社協あすなろデイサービス(2回目)(南相馬市・小高区民) 会場:小高区社協

南相馬市小高区社協との連携により開催することが出来た。5月に続き2回目。会場は小高保険福祉センター。昨年続々避難指示解除になった市町村が多い中で、帰還者向けに支援の事業(イベント)を行っているには、報告者の知る限り、南相馬市小高区の社協だけである。帰還者は元住民の10%前後で、バラバラに別れて住んでいる。開催場所は元より、周知の仕方、送迎手段など整わないと集会は出来ない。従って、小高区社協との連携することは、帰還者の支援で目下の貴重なチャンネルになる。

支援者は、草野誠牧師(日本キリスト改革派中部中会恵那教会) 草野容子さん 石川和宏 石川千鶴子

#### 支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD 上映((落語三遊亭圓歌「中沢家の人々」・きみまろライブ1巻)・昼食(豚汁など)・ビンゴゲーム・お菓子すくい・巨大風船遊び・自家焙煎コーヒーと手作りケーキ・手作りクッキー・庖丁研ぎ
- ・支援者を除く参加者25名(男性7名) 総参加者37名 庖丁研ぎ5世帯5本
- ・草野牧師には、短時間だったが皆さんへの応援メッセージを語っていただいた。
- ・記念の写真をいただき、参加者を代表した方からお礼の言葉をいただいた。

#### 皆さまから伺ったこと

- ・(岐阜県から)よう来ておくんさった。
- ・(食事に出たお漬物を見て)昔は自分たちで全部作った。シソの実やら、ススの実やきゅうりも、自分たちでとって切って樽で味噌に漬けて…みんな流されてしまった。今は買って食べる。美味しいでしょう、食べなさい食べなさい。
- ・昔は、なんでも自分で作った。農家だったから。こんにやくも自分たちで作った。
- ・昔は、絹も作っておった。蚕をかって、桑の葉をたくさんとってきて、今は桑の畑もないし、山を手入れするもんがおらんから荒れてしまう。昔、畑だったところも草がこんなになって(高くのびて)荒れてしまっておる。荒れてしまった場所を見るのは心が痛む。

- ・自分の家は大丈夫だったけれど、村は大変なことだった。みんな、流されちまって。
- ・新潟に1ヶ月、避難していたが、本当によくしていただいた。
- ・今、戻ったところで田んぼだった土地があって(稲作を)またしたいが、自分の土地と隣人の土地の線がぐちゃぐちゃになってようわからんようになってくるからまず、それが分かってからしか田んぼはやれない。
- ・いろんな動物がくる(いのしし、しか、さる)。
- ・買い物に、遠くまで行かなきゃならない。原町まで行く。
- ・原町には、昔の飛行場跡(特攻隊)があったが、その跡地に今はたくさん家がたつとる。
- ・今日は楽しかった。ありがとうありがとう。
- ・また会えるかねえ、またどうぞ来てください。



#### 【4】10月25日 鹿島区社協デイサービス (南相馬市民) 会場:鹿島区サポートセンター希望

南相馬市鹿島区にある社協の施設の行事で、毎週水曜日が「元気塾」。5月に続き2回目で、場所が変わる前からだと10回目。

台風のために10月23日のイベントが中止になり、元々「仕込み日」としていたこの日に、社協の責任者の方に訪問を打診し、快諾していただいた。

支援者は、石川和宏 石川千鶴子

## 支援の結果

- ・提供したのは、健康体操・ビンゴゲーム・お菓子すくい・腹話術・DVD 上映((落語三遊亭圓歌「中沢家の人々」・きみまるライブ1巻)・昼食(豚汁など)・自家焙煎コーヒーとケーキ・巨大風船遊び・健康体操・手作りクッキー
- ・庖丁研ぎ
- ・支援者を除く参加者 22 名(男性 7 名) 総参加者 31 名 庖丁研ぎ 4 世帯 10 本
- ・日赤のボランティアの方 2 名がマッサージをされていた。以前にも他の所でご一緒した方たち。
- ・参加者の代表者の方からお礼の挨拶があり、たくさんの方から「また(水曜日)に来てください」と請われた。

## 皆さまから伺ったこと

### 《津波・原発・避難・戦争体験など》

- ・家は流されて、基礎だけになった。
- ・家は、津波で、屋根だけが残った。遠くから屋根が見えたので「家は無事で良かった」と思ったが…。
- ・浜の方に家があった。津波で部落毎無くなってしまった。
- ・波の音を聞かないと眠れない。そうして育った。
- ・原発からの避難は、文字通り「着の身着のまま」だった。
- ・福島市に避難したが、そこも線量が高かった。千葉に行った。
- ・動員されて郡山で戦闘帽のツバを作っていた。父は中支(编者注:今の華中)で戦死した。その後は苦労が多かった。
- ・相馬は、B29 の空襲があった。
- ・笹の葉をかぶって機銃掃射から逃げた。
- ・小学生の時に潮汲みをさせられた。機銃掃射に遭い、舟の下に隠れた。
- ・原町空襲や仙台空襲を見た。
- ・勝つと思ったけれど負けた。
- ・アメリカ兵が歩いていると、父は娘(自分)を隠した。
- ・ヤサワ(编者注:戦前干拓事業があった旧相馬郡八沢浦)の干拓地に嫁に来た。36 歳で夫が病死した。子どもを 3 人育てた。実家に食料を貰いに行った。(88 歳の方)

### 《帰還について》

- ・牛河内第 3 仮設に居たが、今は自宅に戻った。
- ・角川原の仮設住宅に居た。
- ・栗や山菜は食ってなんね。なんで解除したんだ。

### 《イベントについて》

- ・わざわざ横浜から来られて、有り難う。相馬(地方)の生まれだ。家も何も流されて鹿島(区)にいる。今日は相馬の歌を聴いてせいせいした。10 歳若返った。
- ・毎回楽しみにしているので、誰も休まない。

## 【5】10 月 26 日 若宮復興住宅(初回)(二本松市・浪江町民)

初訪問 サマリタンハウスから片道 96 km・1 時間 30 分。初訪問

二本松インターに近い二本松市街にある原発被災者向けの復興住宅。復興住宅としてはかなりの好立地である。原発被災者の中でも帰還困難区域の方のみを入居対象者としている復興住宅と伺った。

4 階建て 1 棟 32 戸、住民は、全員が浪江町民で、今年 7 月に入居が始まったばかり。今回が 2 回目のイベントで、食事をするのは初めてと伺った。ガスレンジとかカーテンなどが未だ備わっていない。

NPO みんなぷく(福島市)にチラシ配布や当日の手伝いをしていただいた。団地自治会の方にもたくさん手伝っていただいた。

支援者は、石川和宏 石川千鶴子

### 支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD 上映(コロッケライブ前半・きみまろライブ1巻)・昼食(豚汁など)・ビンゴゲーム・自家焙煎コーヒーとケーキ・手作りクッキー・庖丁研ぎ
- ・日本キリスト改革派教会中部中会の諸教会から提供していただいた激励文の入ったお菓子袋、手作りクッキーなどをプレゼントした。
- ・支援者を除く参加者 16 名(男性 3 名) 総参加者 22 名 庖丁研ぎ 5 世帯 5 本

### 皆さまから伺ったこと

《帰還について・どういう状況になれば帰還を考えますか?》

- ・店舗・医者が揃えば。
- ・町が全て元の状態に戻ったら。

《イベントについて》

- ・大変良かった。月に 1 回はやってもらいたい。みんなとつながりが出来た。
- ・健康に関することを行ってもらいたい。
- ・とても楽しく久々に笑えた。健康体操など、身体を動かすことがしたい。

## 【6】10月28日 寺内塚合第2 仮設住宅 (8回目) (南相馬市・小高区民) (芋煮会)

寺内塚合第 2 は、南相馬市だけでなく福島県下原発被災者向け仮設住宅の中でも、トップクラスの活発な自治会活動がある。会長である井島さんの熱意に拠るところが大きい。現在の居住者は 41 世帯。

訪問(支援)は、今回で 8 回目になる。前回訪問時に参加した皆さんから「芋煮会を」という声が多く出て、自治会と相談し「共同開催」にした。

買い物・会場作り・調理・後片付けなどは、自治会の皆さんがなされた。

支援者は、石川和宏

### 支援の結果

- ・提供したのは、芋煮会材料(米・費用の一部)・食器・ビンゴゲーム(景品の一部)・自家焙煎コーヒーとケーキ・ミネラルウォーター・庖丁研ぎ
- ・復興住宅に移られた方、小高区に戻られた方などが十数名参加された。6 年間苦労を共にした仲間との紐帯が、皆さんの拠り所になっている。
- ・参加者同士が「しばらく」と声を掛け合っていた。行事は皆さんの貴重な交流の機会になっている。
- ・支援者を除く参加者 31 名(男性 10 名) 総参加者 32 名 庖丁研ぎ 6 世帯 6 本
- ・イベント後、自治会役員の皆さまと 1 時間くらい懇談し、色々と聞かせていただいた。



## 皆さまから伺ったこと

### 《津波・原発・避難について》

- ・安達太良に避難し、その後長野県の小学校に行った。途中でパサパサのおにぎりを食べた。
- ・事故後、崩壊した家族も多い。

### 《帰還について》

- ・小高に戻ったが、部落で戻ったのは、22軒中の2軒だ。
- ・買い物は、ローソンに行っている。歩いて行くが、他に店はない。
- ・ジャンボタクシー(\*)も来年はなくなる。

\*南相馬市の提供する旧避難指示区域の小高区・原町区で生活する高齢者などへの交通手段。旧避難指示区域への一時帰宅や帰還住民の買い物・通院などの日常生活における不便解消に資するため、市がジャンボタクシーを運行している。



- ・来月免許証の更新がある。認知症検査で引っ掛かると歩かなければならない。
- ・小高区の主産業は農業だ。農業が復旧しないと復興しない。米を作っているが、全量買い上げで、他には売れない。
- ・小高では、続々と家が壊されて行く。帰ってくるのは年寄りばかりだ。子どもたちはいない。小高区の小学校には鹿島区から通ってくる。若い人はいないので、新しい家も建たない。
- ・小高工高の近くだが、自宅の線量は低い。近所は大部分が戻った。
- ・小高の家はダメになったので壊した。再建中だが大工がいない。未だ暫くは仮設に住む。

### 《仮設住宅の暮らしについて》

- ・「賠償金をもらって良いな」と言われた。「4畳半だぞ。何でも手が届く。刑務所みたいだ。代わるか?」と言いつつ返した。

### 《復興住宅の暮らしについて》

- ・Café de FUKUSHIMA の復興住宅でのイベントのチラシを見た。別の町の方が多いので、分かってはいたが参加しなかった。

## 【7】まとめ

今回、出会った方々 131名(内男性31名) 総参加者167名 庖丁研ぎ 43世帯 51本

大きい台風で予定を変えたが、今回もたくさんの被災者・避難者に出会えた。しかし、約10万人と言われる総数に較べれば、わずかな支援である。

### 被災者・避難者と地域社会を隔てる溝

帰還困難区域の方々を始め、帰還を断念した被災者が新居を建てるなどして県内各地に住んでおられる。マスコミは滅多に報道しないが、その地で決して歓迎されていないという事例をたくさん耳にしている。曰く、「原発を誘致した地元が悪い」「多額の賠償金を手にしているではないか。私たちは放射能の害を受けているのに何ももらっていない。」「賠償金で遊んで暮らしている」等々、枚挙に暇が無い。

### 被災者・避難者間の溝

更に、同じ被災者間でも「賠償金格差」による溝もある。地図上に引かれた線1本がもたらす見えない溝である。中には誤解もあるが、避難者・被災者とそうでない県民と間に、原発由来の深刻な分断がある。原発再稼働を認めるか否か、「立地地元市町村」と「事故の影響を受ける市町村」の間の溝と似ている。

## 被災者・避難者にとって、溝を克服しないと復旧・復興はない

一方、やむを得ず故郷を離れ、居を移した被災者が、その先の地域社会に受け入れられなければ、「復旧・復興」は到底進まない。今回は、イベントに地域住民の方が多数参加された。被災者・避難者の「復興」にとって、復興住宅内は元より、地域内でのコミュニティ作りも欠かせない。みんぷくの努力もあって、避難者と地域住民が共に集う貴重な場が出来ている。良き先例になって欲しいし、Café de FUKUSHIMA としてもこれに寄与していきたい。

## 行政に期待すること

「支援を必要とする人がいる限り、最後の一人まで支援する」(今年4月の吉野正芳復興大臣の就任会見での発言)、「避難者について、『原発事故による自主避難者を含む』震災前の住居に戻る意思がある』などと定義(復興庁)」、支援を続ける者からすれば、これらは、行政として極めて真っ当な立ち位置である。今日も明日もその先も、そうであってほしい。

## Café de FUKUSHIMA は何が出来るか？

今回も、日本キリスト改革派教会中部中会の諸教会から提供していただいた激励文の入ったお菓子袋、手作りクッキーなどを皆さまにプレゼントし、大変喜んでいただいた。港南台キリスト教会の皆さんからビンゴゲームの賞品・お菓子・手芸用の布などを寄贈していただいた。

Café de FUKUSHIMA の力は貧弱だが、これらの支援が被災者・避難者への同情と共生の働きを重厚なものに変えてくださっている。改めて感謝したい。

## 【8】今後のスケジュール

### 11月25日～12月2日

- ◇ 11月27日(月) 小池原畑第2仮設住宅(5)(南相馬市 高区民)
- ◇ 11月28日(火) 飯舘村南相馬自治会(11)(南相馬市 飯舘村民)
- ◇ 11月30日(木) 恵向仮設住宅(3)(本宮市 浪江町民)
- ◇ 12月1日(金) 貝山仮設住宅(4)(三春町 葛尾村民)

### 12月14日～12月23日

- ◇ 12月15日(金) 南相馬市高齢者交流ふれあい会(初)(南相馬市 南相馬市民)(計画中)
- ◇ 12月16日(土) 小高東町復興住宅(4)(南相馬市 小高区民)
- ◇ 12月18日(月) 小池小草仮設住宅(5)(南相馬市 小高区民)
- ◇ 12月19日(火) 上町復興住宅(2)(南相馬市 飯舘村民)
- ◇ 12月21日(木) 牛越第1・第2仮設住宅(6)(南相馬市 小高区民)
- ◇ 12月22日(金) 大町災害公営住宅(3) 相馬市 南相馬市民)